

2024 年 11 月 25 日

通貨ニュース

インド:外貨準備高の取り崩しについて

11 月 22 日、インド準備銀行(RBI、中央銀行)は 15 日時点の外貨準備高を公表したが、結果は 6579 億ドルとなった(図表 1)。7 月 5 日以来約 4 か月ぶりの低水準に落ち込んでいる。11 月 8 日時点からは、▲178 億ドル減少しており、週間の減少幅としては、統計開始来最大を記録した格好だ。過去最大の 7049 億ドル(9 月 27 日時点)と比較すると、実に▲470 億ドルも取り崩されている。RBI が INR 買いの為替介入を行っていることは過去の本欄で度々指摘したが、外貨準備の取り崩しからもその実態は見えてくる。

ブルームバーグが試算する為替介入の推計値を確認しても、RBI は 10 月に入って以降、INR 買い方向の介入に徹しているようだ(図表 2)。外貨準備高、そして為替介入推計値も最新データは 15 日時点のものだが、22 日時点のデータに関しても、同様の傾向が確認される可能性が高い。第一に、特に 22 日の INR 相場を確認すると、84.5 という水準で明確に INR が下支えられている。第二に、ロイターの報道によれば同日、RBI は複数の銀行に対し USD/INR のロングポジションを削減するよう指示したようだ。INR 安を抑えるため銀行に何らかの行動を要請したことはこれまでもそれなりに報道されてきたが、明確に「指示」を与えることは珍しい、との評価が市場では大勢だ。

なお大々的に報じられた通り、21 日にはインド財閥アダニグループの会長が米検察当局に起訴された。インド金融市場からの資本流出への警戒感が高まる中、RBI も INR の変動性および過度な下落を抑制すべく、為替介入および市場参加者への指示を行っている可能性が高い。INR に関しては、短期的には RBI による介入スタンス次第の相場となろう。取り崩されているとはいえ外貨準備高の水準は十分であり、投機筋の攻撃を受けやすい状態でもない。

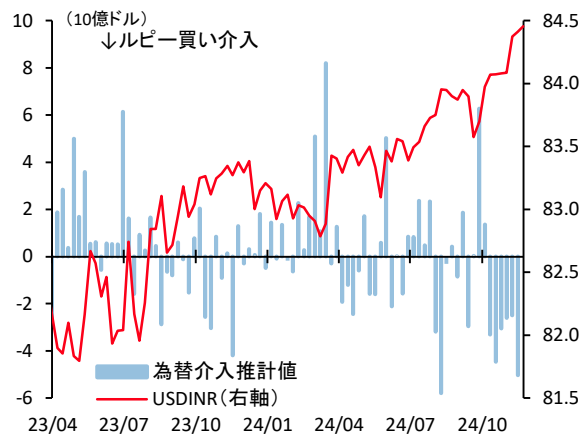
金融市場部
マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

図表 1:インドの外貨準備高と INR 相場



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: RBI による為替介入の推計値



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

※介入推計値の最新データは 11 月 15 日週

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。